

ウニの磯焼け域に海藻群落が維持される環境条件

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川俣, 茂 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009449

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



ウニの磯焼け域に海藻群落 維持される環境条件

水産土木工学部

研究の背景・目的

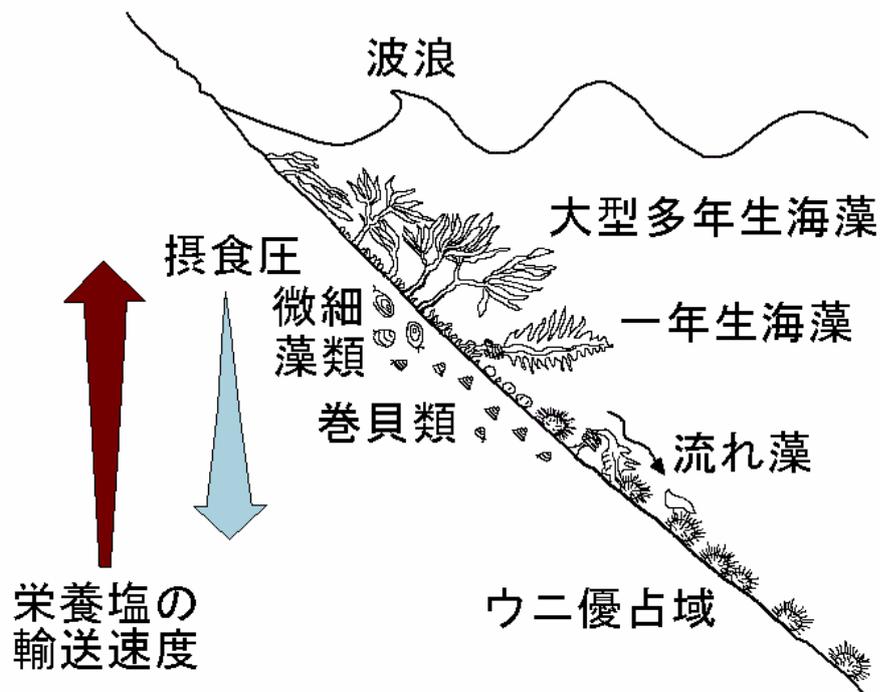
1. 岩手県南部～千葉県銚子市沿岸ではアラメなどの藻場がキタムラサキウニ（以下、ウニという）の摂食によって全滅した海域がある。
2. しかし、ウニが高密度で生息する磯焼け状態の海域でも局所的に海藻群落が毎年維持される場があり、その環境条件を明らかにした。

研究成果

多年生のアラメが群落を維持するためには、ウニの移動や付着を制限するほど強い波動流が定期的にあることと、流動に強い巻貝類の餌となる微細藻類が常にあることが必要

波及効果

1. ウニの磯焼け域で藻場造成を行うための環境造成の設計指針
2. アラメの移植可能な環境条件の把握



(水理研究室 川俣 茂)